

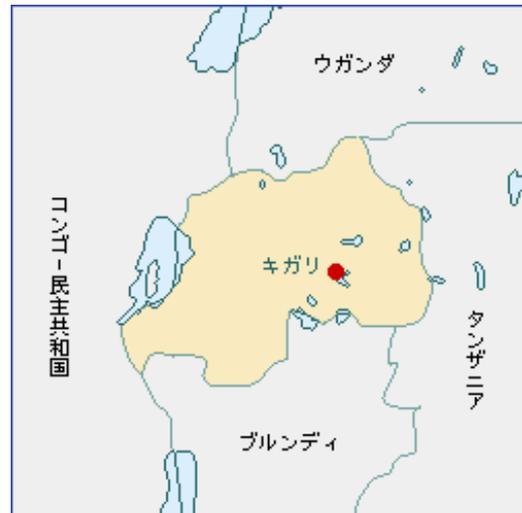


ルワンダ共和国概況

2014年2月
在ルワンダ大使館

1 一般事情

- (1)面積: 2万6. 338k m²(四国の約1. 5倍)
- (2)人口: 1, 130万人(2012年、UNFPA)
- (3)首都: キガリ(Kigali)
- (4)民族: フツ族(85%)、ツチ族(14%)、トゥワ族(1%)
- (5)言語: ルワンダ語、英語、仏語
- (6)宗教: キリスト教(94%)、イスラム教(4. 6%)他
- (7)国祭日: 7月4日(解放記念日)



(8)略史:

17世紀	ルワンダ王国建国
1889年	ドイツ保護領 (第一次大戦後はベルギーの信託統治領)
1961年	王政に関する国民投票(共和制樹立を承認) 議会在カイバンダを大統領に選出
1962年	ベルギーより独立
1973年	クーデター発生(ハビヤリマナ少将が大統領就任)
1990年10月	ルワンダ愛国戦線(RPF)による北部侵攻
1993年 8月	アルーシャ和平合意
1994年 4月	ハビヤリマナ大統領暗殺 同事件発生をきっかけに「ルワンダ大虐殺」発生(～94年6月)
7月	ルワンダ愛国戦線(RPF)が全土を完全制圧 新政権樹立(ビジムング大統領、カガメ副大統領就任)

2000年 3月	ビジムング大統領辞任
4月	カガメ副大統領が大統領に就任
2003年 8月	複数候補者による初の大統領選挙にてカガメ大統領当選
9-10月	上院・下院選挙実施(与党RPFが勝利)
2008年 9月	下院選挙実施(与党RPFが勝利。世界で初めて女性議員が過半数を占める。)
2010年 8月	大統領選挙(カガメ大統領再選)

2 政治体制

- (1)政体： 共和制
- (2)元首： ポール・カガメ大統領(2000年4月就任、2003年及び2010年再選。)
- (3)議会： 上院(26議席)、下院(80議席)
- (4)与党： ルワンダ愛国戦線(RPF)
- (5)政府(2014年2月)
 - 首相： ピエール・ダミアン・ハブムレミ
 - 外相： ルイーズ・ムシキワボ

3 内政状況

- (1)1994年の大虐殺の爪痕を乗り越えようと、カガメ政権は、出身部族を示す身分証明証の廃止(94年)、フツ族の首相・閣僚の任命(94年)、遺産相続制度改革(女性の遺産相続を許可)(99年)、国民和解委員会・国民人権委員会の設置(99年)など、国民融和・和解のための努力を行っている。他方、カガメ大統領個人の影響力が強大であるため、憲法では三選が禁じられているところ、2017年の次回大統領選挙に向けた内政動向が注目されている。
- (2)国内的には安定政権である一方で、現政権は政党活動の自由を制限し、野党系の政党に対する抑圧的な対応が指摘されている。
- (3)2003年8月の大統領選挙で、カガメ大統領が95%の得票率で勝利。また、同年9-10月の議会選挙においても、与党RPFが勝利し、カガメ政権は両選挙を経て政権基盤を固めた。
- (4)カガメ大統領は汚職対策に力を入れており、他のアフリカ諸国に比して、汚職の少なさ・治安の良さは特筆され、世銀等からの評価は高い。

4 外交・国防

- (1)外交方針 従来非同盟中立主義が基本路線。冷戦時代は東西両陣営と友好関係を維持、現在は、経済開発のために先進諸国との協力に重点を置く。また、ルワンダは、国際連合アフリカ連合ダルフル派遣団(UNAMID)などへのPKO要員派遣等を通じ、また、2013年からは国連安保理非常任理事国(任期2年)として、アフリカ地域、主に大湖地域の平和と安定及び紛争予防等の実現に向けた役割を担っている。

(2) 軍事力

ア 予算 7,300万ドル(2012年)

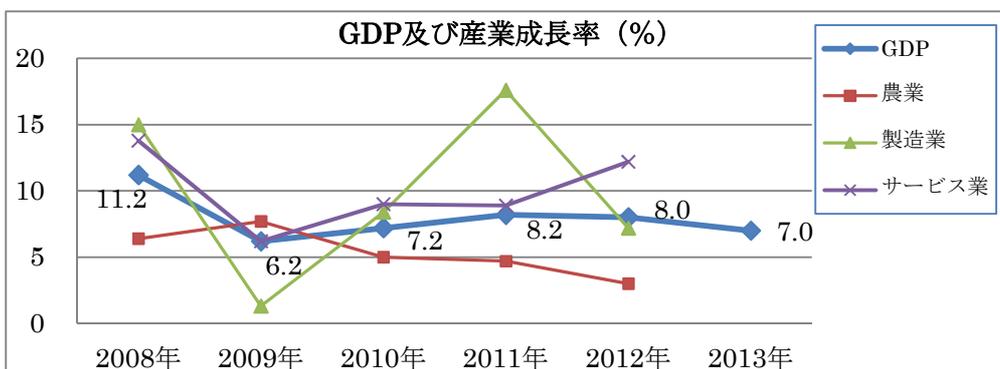
イ 兵力 陸軍 32,000、空軍1,000、予備役2,000

(3) 2007年に東アフリカ共同体(EAC)に加盟し、右を中心とする域内統合に参加、特に、ウガンダ及びケニアとの間では3カ国プロジェクト(通関等各種手続の統一化、共通観光査証の導入、鉄道敷設等)を積極的に推進している。

(4) 2012年4月から継続しているコンゴ(民)東部における反政府軍の活動をルワンダ政府が支援しているとの指摘があり、一時コンゴ(民)政府との関係が緊張し、また、米国による軍事援助が段階的に停止された。2013年11月のコンゴ(民)東部情勢展開以降、ルワンダ政府は、反ルワンダ武装勢力であるルワンダ解放民主勢力(FDLR)の掃討を繰り返し国際社会に要請している。

5 主要経済指標

GDP	71億米ドル(2012年、世銀)
一人当たり GNI	600米ドル(2012年、世銀)
経済成長率	7.0%(2013年、世銀)
インフレ率	6.3%(2012年、世銀)
失業率	N/A
総貿易額・主要貿易品目	
輸出額	482.7百万米ドル (2012年、ルワンダ中央銀行(BNR))
主要輸出品目	コーヒー、茶、錫、コルタン
輸入額	1759.3百万米ドル (FOB価格)(2012年、BNR)
主要輸入品目	消費財、資本財、中間財、エネルギー
主要貿易相手国	
輸出	ケニア(43.7%)、コンゴ(民)(17.5%)、中国(15.7%)、マレーシア(13.9%)
輸入	ケニア(18.4%)、ウガンダ*(16.6%)、UAE(8.3%)、中国(6.9%)
通貨	ルワンダ・フラン(Rwf)
為替レート	1米ドル=656.0ルワンダ・フラン(2013年12月末)
外貨準備高	8.5億米ドル(2012年、EIU)
対外債務残高	4.7億米ドル(2011年、世銀)



6 経済状況

(1) 近年年率7～8%の経済成長を遂げ、「アフリカの奇跡」と称されている。天然資源に乏しく、農業がGDPの4割以上、労働人口の約9割を占めるが、多くの農民が小規模農地を所有。主要作物はコーヒー及び茶(輸出収入の6割)であり、高品質化により国際競争力を強化する政策を取っている。一方で、資源に乏しく内陸国のために輸送費が高いという問題も抱える。

(2) 2000年、中長期的国家開発計画である Vision2020 を発表、科学技術分野での人材資源開発を通じた知識立国を目指す等の目標を掲げている。同年12月には拡大 HIPC イニシアティブの決定時点に達し2005年4月にHIPC完了時点に到達した。2007年11月には経済開発貧困削減戦略(EDPRS)を策定、さらに、2013年5月には右貧困削減戦略の次フェーズにあたる EDPRS2 を策定し、成長の加速化を目標としている。

(3) ルワンダ政府はビジネス環境整備に力を入れており、世銀の「Doing Business 2014」ではビジネスの行いやすさでアフリカ諸国内2位と評価された(注:1位はモーリシャス)。進行中の大型投資計画として、電力開発(2018年までに現行110MWの発電能力を563MWに増大することを目標としている)、ICT基盤整備、新国際空港及びキガリ・コンベンションセンターの建設がある。同国政府は、2013年4月に初の外債(約4億米ドルのユーロ債、償還期限10年、利率6.625%)を発行し、同大型投資への資金調達に成功した。一方で、製造業等の国内産業が未発達であり、恒常的な貿易赤字を解消するような産業の育成、既存輸出品目の高付加価値化等が課題である。

(4) なお、国家予算(約26億米ドル、2013/14年度(※7月から翌年6月まで))の約4割を外国政府からの政府開発援助(ODA)に依存しており、同国政府にとってODA以外の歳入源確保が課題であり、IMFの政策支援インストルメント(PSI)の下、税収等による歳入増加に取り組んでいる。

(5) 他方、近年のGDPに占める税収割合には改善が見られ、また、安定的なマクロ経済状況及び鉱業における輸出額の増加等の良好な経済実績に鑑み、2013年11月、IMFによる債務持続性(DSA)は低リスク国(黄色信号)から中リスク国(緑色)に評価変更された。

7 二国間関係

(1) 政治関係

ア 我が国は、ルワンダが独立した1962年7月に国家承認。ルワンダは1979年5月に在京大使館を開設、2000年9月-2004年12月まで閉鎖、2005年1月再開。我が国は在ケニア大が兼轄してきたが、2010年1月に在ルワンダ大使館開館。

イ 1994年4～6月の大虐殺事件で国外に避難したルワンダ難民救援のため、我が国は、同年9～12月の間、国際平和協力法に基づき、ザイール共和国(現コンゴ民主共和国)のゴマ等に約400名の難民救援隊・空輸隊等を派遣。

ウ 2011年5月、日ルワンダ友好議員連盟発足(会長:遠藤利明衆院議員)

エ 1965年から6年間、服部正也氏が日銀から出向し、ルワンダ中央銀行総裁を務めた。

(2) 経済関係

ア 貿易額・主要貿易品目(2013年1～11月、財務省貿易統計):

対日輸出： 1億3,492万円（コーヒー、雑貨類）

対日輸入： 18億8,541万円（自動車、二輪車、医療関連機械）

イ 進出企業： 2社（オーガニック・ソリューションズ Rwanda、i-Wind Consulting）

(3)在留邦人数： 124名（2014年1月）

(4)在日当該国人数： 50名（2012年）

(5)要人往来

ア 往訪(95年以降)	
2005年10月	逢沢外務副大臣
2006年 8月	村田吉隆衆議院議員、北村誠吾衆議院議員(日 AU 友好議連)
10月	浜田政務官
2008年12月	御法川政務官
2009年 6月	橋本外務副大臣
2010年 9月	西村康稔衆議院議員
12月	柳沢議員, 米長議員, 佐藤正久議員(ODA 参議院調査団)
イ 来訪(97年以降)	
1997年 4月	カガメ副大統領(外務省賓客)、ビララ大蔵・計画大臣
1998年10月	ルイジェマ首相(TICAD II 出席)
2000年 1月	イヤムレムイエ外務大臣(非公式)
2001年12月	カベルカ財務・経済計画大臣(TICAD 閣僚レベル会合)
2003年 9月	マクザ首相、ムリガンデ外務大臣(TICAD III 出席)
2005年 2月	ムジャワマリア初等中等教育担当大臣(フォーラム出席)
4月	カベルカ財務・経済計画大臣
6月	ンシュティ商業産業・投資促進・観光・協同組合大臣(愛知万博)
7月	ムリガンデ外務大臣(外務省賓客)
9月	ムレンジ教育・科学・技術・研究大臣(STS フォーラム出席)
2006年 6月	ムリガンデ外務大臣、ンサンザバガンワ経済計画担当大臣 カレガ産業・投資促進担当大臣
11月	カガメ大統領(実務訪問賓客)、カマンジ・インフラ大臣、ムセナリ協力担 当大臣、ンサンザバガンワ経済計画担当大臣
2007年10月	ムレンジ科学・技術・研究大臣(STS フォーラム出席)
2008年 5月	カガメ大統領(TICAD IV)
2010年10月	カマンジ土地・環境大臣(COP10)
2011年 6月	ムシキワボ外務協力大臣(MDGs フォローアップ会合)
11月	ルワンゴムブワ財務・経済計画大臣
2012年10月	ルワンゴムブワ財務・経済計画大臣(IMF 世銀総会)
2013年 6月	カガメ大統領(TICAD V)

(6) 二国間条約・取極 1985年6月 青年海外協力隊派遣取極
2005年1月 技術協力協定

(7) 経済協力(2012年、ODAデータブック、)

ア 援助実績(2011年度までの累積)

(ア) 円借款 46.49億円(E/N ベース) ※近年は実績無し

(イ) 無償資金協力 374.61億円(E/N ベース)

(ウ) 技術協力 81.25億円(経費ベース)

イ 最近の主要案件(無償資金協力)

- 2010年3月「第二次地方給水計画」(14.35億円)

- 2011年3月「変電及び配電網整備計画」(25.5億円)

- 2011年9月「ルスモ国際橋及び国境手続円滑化施設整備計画」(18.6億円)

ウ 主要援助国(2012年、ルワンダ財務省、単位百万ドル)

① 米(223)、②英(127)、③ベルギー(44)、④オランダ(40)、⑤ドイツ(36)、⑥日本(20)

(8) 文化交流

2012年には、外交関係樹立50周年を記念し、キガリ市において、和太鼓講演を行った。

(了)